

Title	南米チリにおける日本の国際協力の展開
Sub Title	Japanese ODA in Chile
Author	安井, 伸(Yasui, Shin)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究では、1950年代に開始された日本の対チリ援助政策のこれまで60年間の推移を概観し、今後の展望と課題を模索した。最初の20～30年間の対チリ援助政策の特徴としては、二国間の技術協力を中心に、チリの基幹産業で日本との貿易関係が緊密であった鉱業分野や水産分野に対する協力案件の比重が高かったことが挙げられる。中でも「サケ養殖プロジェクト」の成功事例は、非伝統的輸出部門の創出・振興というチリの新しい成長戦略への貢献が顕著で、国際的な評価も極めて高く特筆に値することを指摘した。</p> <p>これに対し1990年の民政移管後の30年間には、チリが周辺諸国へのいわゆる南南協力を積極的に取り組む姿勢を見せ、これに答える形で、1990年、日本は中南米では初めてのパートナーシップ・プログラム(JCPP)をチリと締結し、二国間協力で蓄積した知見を活かしつつ、様々な分野で三角協力が実践に移された。中でも、KIZUNAプロジェクトと通称される防災分野の人材育成プロジェクトは、地震多発国である両国ならではの知見を効率的かつ効果的に中南米諸国に伝えるスキームとして高評価を得ている。他にも、身体障害者リハビリテーションプログラムの事例を取り上げ、必ずしも目立たないものの、二国間で始まったどちらかと言えば地味な印象の援助プログラムが現地で高い評価をうけて、三角協力を発展し周辺諸国の福祉改善に資している例なども紹介した。</p> <p>チリはすでにOECDの加盟国で、DAC委員会のODA対象リストから外れ、いわゆる「援助卒業国」となった。日本は引き続きチリを開発途上地域として認定し、JICAを通じた技術協力事業の継続を決定しているが、今後は東アジアと南米・ラテンアメリカの要となる対等で戦略的なパートナーとして、一層緊密な協力関係を築くことが必要だろう。</p> <p>In this study I investigated the role of Japanes ODA in Chile, focusing on the so-called Triangle Cooperation Scheme.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190095

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	商学部	職名	准教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	安井 伸	氏名 (英語)	Shin Yasui		
研究課題 (日本語)						
南米チリにおける日本の国際協力の展開						
研究課題 (英訳)						
Japanese ODA in Chile						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究では、1950年代に開始された日本の対チリ援助政策のこれまで60年間の推移を概観し、今後の展望と課題を模索した。最初の20～30年間の対チリ援助政策の特徴としては、二国間の技術協力を中心に、チリの基幹産業で日本との貿易関係が緊密であった鉱業分野や水産分野に対する協力案件の比重が高かったことが挙げられる。中でも「サケ養殖プロジェクト」の成功事例は、非伝統的輸出部門の創出・振興というチリの新しい成長戦略への貢献が顕著で、国際的な評価も極めて高く特筆に値することを指摘した。</p> <p>これに対し1990年の民政移管後の30年間には、チリが周辺諸国へのいわゆる南南協力を積極的に取り組む姿勢を見せ、これに答える形で、1990年、日本は中南米では初めてのパートナーシップ・プログラム(JCPP)をチリと締結し、二国間協力で蓄積した知見を活かしつつ、様々な分野で三角協力が実践に移された。中でも、KIZUNAプロジェクトと通称される防災分野の人材育成プロジェクトは、地震多発国である両国ならではの知見を効率的かつ効果的に中南米諸国に伝えるスキームとして高評価を得ている。他にも、身体障害者リハビリテーションプログラムの事例を取り上げ、必ずしも目立たないものの、二国間で始まったどちらかと言えば地味な印象の援助プログラムが現地で高い評価をうけて、三角協力が発展し周辺諸国の福祉改善に資している例なども紹介した。</p> <p>チリはすでにOECDの加盟国で、DAC委員会のODA対象リストから外れ、いわゆる「援助卒業国」となった。日本は引き続きチリを開発途上地域として認定し、JICAを通じた技術協力事業の継続を決定しているが、今後は東アジアと南米・ラテンアメリカの要となる対等で戦略的なパートナーとして、一層緊密な協力関係を築くことが必要だろう。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
In this study I investigated the role of Japanese ODA in Chile, focusing on the so-called Triangle Cooperation Scheme.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			
安井伸	「対チリ援助—被援助国から戦略的パートナーへ—」	『国際協力ハンドブック』	2021年刊行予定(ミネルヴァ書房)			